

GIDWR 岐阜県感染症発生動向調査週報

2014 年第 37 週
(9/8～9/14)

Gifu Infectious Diseases Weekly Report 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

- ◇ 岐阜市保健所管内で RS ウイルス感染症が増加しています。
- ◇ 県内で麻疹患者の報告がありました。→トピックス
- ◇ 9 月 24 日～30 日は結核予防週間です。→トピックス

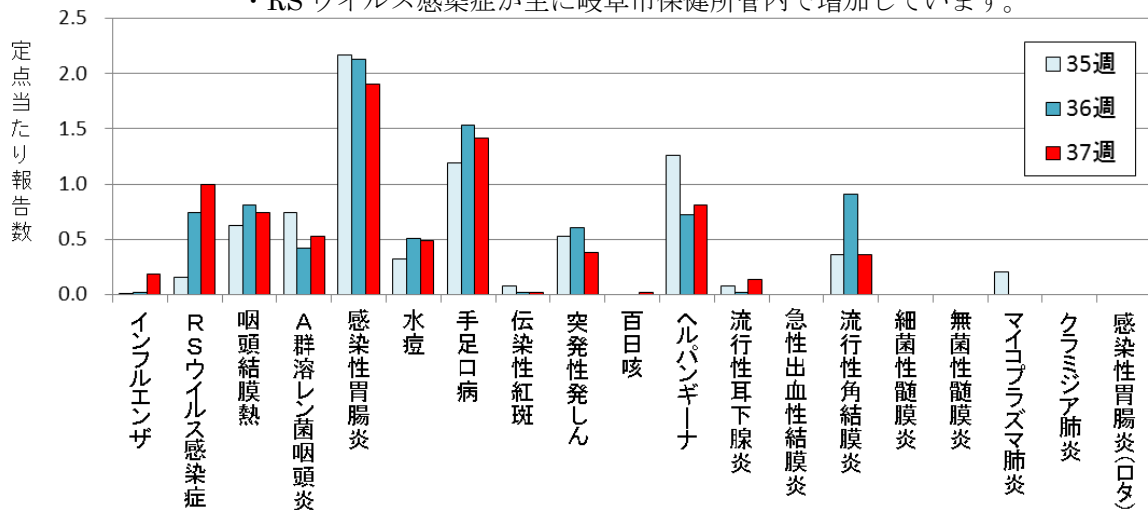
■ 定点把握対象疾患（インフルエンザ 定点:87 か所、小児科 定点:53 か所、眼科 定点:11 か所、基幹 定点:5 か所）

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

	疾患名	保健所名（定点当たり報告数）
警報レベル	咽頭結膜熱	恵那保健所（2.25）
注意報レベル	なし	—

● 直近 3 週の比較

- ・ 恵那保健所管内で咽頭結膜熱の流行が続いています。
- ・ RS ウイルス感染症が主に岐阜市保健所管内で増加しています。



■ 全数把握対象疾患

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 15 例
- 3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 2 例（O157：1 例、O26：1 例）
- 4 類感染症：なし
- 5 類感染症：アメーバ赤痢 2 例、麻疹 1 例

● 2014 年累計

1 類感染症	なし		
2 類感染症	結核	314 例	
3 類感染症	細菌性赤痢	1 例	腸管出血性大腸菌感染症 30 例
4 類感染症	E 型肝炎	3 例	デング熱 4 例
	A 型肝炎	1 例	マラリア 1 例
	チクングニア熱	1 例	レジオネラ症 15 例
	つつが虫病	1 例	
5 類感染症	アメーバ赤痢	13 例	侵襲性肺炎球菌感染症 16 例
	急性脳炎	1 例	梅毒 7 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 例	破傷風 1 例
	後天性免疫不全症候群	14 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例
	ジアルジア症	1 例	風しん 1 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4 例	麻疹 3 例

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。

感染症発生動向調査週報 (IDWR) <http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

■トピックス

《麻しん》

◆ 県内で麻しん患者の報告がありました

第 36 週に、県内で今年 3 例目となる麻しん患者の報告がありました。3 例ともに感染地域は発症前に滞在したフィリピンと推定されています。

全国的には、昨年末から今年 4 月頃にかけて麻しん患者の増加がみられ、患者の渡航歴やウイルスの遺伝子型から、フィリピンでの感染例や、それらの患者を感染源とする国内感染例が多いことがわかっています。

◆ 予防接種を受けましょう

麻しんは予防接種で予防可能な疾患です。風しんとともに 2 回（1 期・2 期）の定期接種が予防接種法で規定されています。

国の予防指針では 2 回の予防接種率がともに 95%以上となることを目標としていますが、昨年度の岐阜県における接種率は、1 期 96.5%、2 期 91.4%と、2 期については目標値を大きく下回る結果となっています。

麻しんは感染力が非常に強く、麻しんに対する免疫を持たない人の中で感染が拡大し、大規模な集団感染を起こすこともあります。流行を防ぐためには地域全体で予防接種率を上げていくことが重要です。定期接種対象者は必ず期間中に予防接種を受けましょう。

麻しん定期予防接種対象者

【第 1 期】1 歳児

【第 2 期】小学校入学前 1 年間の小児
(いわゆる年長児)

★確実に 2 回接種することが大切です！

感染症法における取扱い

麻しんは、感染症法において 5 類感染症全数把握対象疾患に定められており、患者を診断した医師は保健所に届け出なければなりません。

また、麻しんの届出をされた場合は、県または岐阜市において PCR 検査を実施していますので、御協力をお願いします。届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kenko-fukushi/yaku-eisei-kansen/kansensho/hasseidoko/kansenshouho-u-kijun.html> (保健医療課 HP)

《結核》

◆ 9 月 24 日～30 日は結核予防週間です

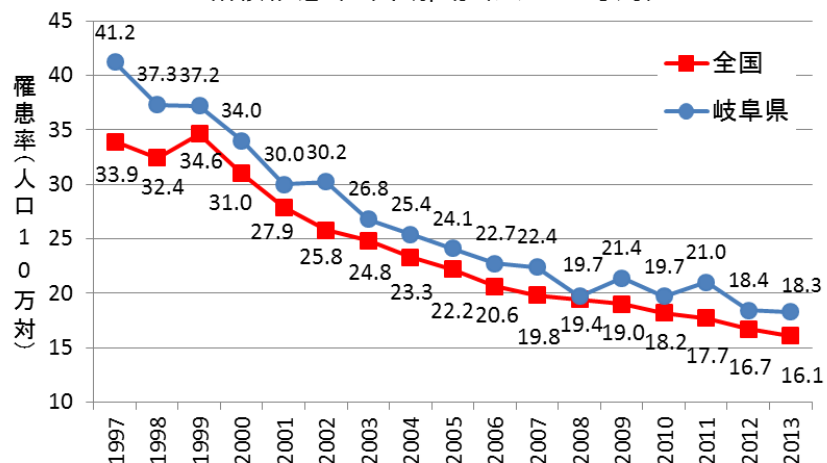
結核は過去の病気ではなく、現代の病気です。厚生労働省では、毎年 9 月 24 日～30 日を「結核予防週間」と定め、結核に関する正しい知識の普及啓発を図ることとしています

◆ 岐阜県の状況

2013 年の岐阜県の新規登録結核患者数は 376 人、罹患率（人口 10 万人当たりの新規登録患者数）は 18.3 と 2012 年からほぼ横ばいに推移しています。

患者は 70 歳以上が約 7 割を占めていますが、若い世代でも各年齢層で新規患者の発生があります。

結核罹患率年次推移(人口10万対)



排菌により感染源となりやすい喀痰塗抹陽性結核患者は 145 人（罹患率 7.1）で、全結核患者の 38.6%、肺結核患者の 51.4%を占めました。

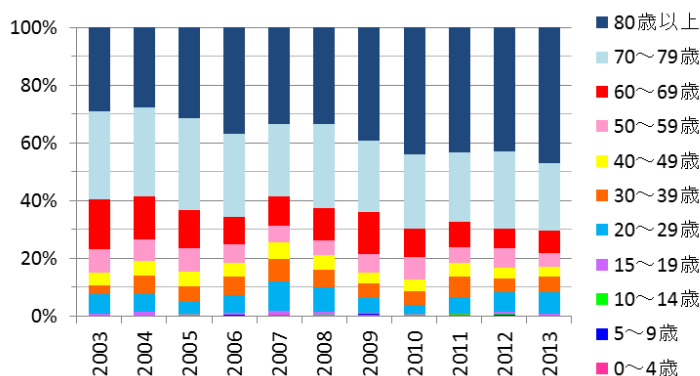
◆ 日常の健康管理と健診・早期受診を

結核は、感染した誰もが発病するわけではなく、免疫力が低下した場合に発病します。予防のためには、日常の健康管理に努めることが重要です。

また、結核と診断されても服薬による治療が可能ですので、定期的な健診をきちんと受け、咳やたんが 2 週間以上続くなどの症状があれば早めに医療機関を受診するなど、早期発見に努めることが大切です。

乳幼児は結核に感染すると重症化しやすく命に関わることもあります。予防には BCG 接種が有効ですので、市町村からの案内に従って接種を受けましょう。

結核患者年齢階級別割合 年次推移(岐阜県)



2013 年岐阜県結核年報データ

率:人口 10 万対

人 (率)		新登録患者 年齢階級別(人)			
新登録結核患者	376 (18.3)	0-4 歳	0	40 歳代	13
〃 肺結核患者	282 (13.7)	5-9 歳	0	50 歳代	18
〃 喀痰塗抹陽性	145 (7.1)	10-14 歳	1	60 歳代	30
潜在性結核感染症	75 (3.7)	15-19 歳	2	70 歳代	87
年末時登録者	835 (40.7)	20 歳代	28	80 歳代	137
年末時活動性	263 (12.8)	30 歳代	20	90 歳以上	40
新登録患者数に占める割合 (%)		新登録患者 保健所別(人(率))			
65 歳以上	72.6	岐阜市	103 (25.1)	中濃	28 (12.6)
70 歳以上	70.2	岐阜	59 (15.0)	東濃	52 (24.8)
80 歳以上	47.1	西濃	53 (14.0)	恵那	23 (17.5)
外国生まれ(33 人)/全結核	8.8	関	35 (22.6)	飛騨	23 (15.0)

感染症法における取扱い

結核は、感染症法において 2 類感染症全数把握対象疾患に定められており、患者を診断した医師は直ちに保健所に届け出なければなりません。届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kenko-fukushi/yaku-eisei-kansen/kansensho/hasseidoko/kansenshouho-u-kijun.html> (保健医療課 HP)

■全数把握の 5 類感染症に新たな感染症が追加されました (平成 26 年 9 月 19 日)

全数把握の 5 類感染症に、「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」、「播種性クリプトコックス症」、「水痘(患者が入院を要するものに限る。)」及び「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が追加されました。

水痘は、小児科定点による定点把握疾患ですが、入院例のみ全数把握となります。薬剤耐性アシネトバクター感染症は、これまで基幹定点による定点把握疾患でしたが、全数把握に変更となります。

患者を診断した医師は、7 日以内に保健所に届出が必要です。届出基準は下記をご覧ください。

○岐阜県感染症情報センターHP

<http://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/kenko-fukushi/hokekan/kansensyo/oshirase/20140919.html>

○保健医療課 HP

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kenko-fukushi/yaku-eisei-kansen/kansensho/hasseidoko/kansenshouho-u-kijun.html>

岐阜県感染症情報センター (岐阜県保健環境研究所) HP

<http://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/kenko-fukushi/hokekan/kansensyo/>